月刊 かながわ鉄構協ニュース NO. 158

Tel　045(290)7600
Fax　045(311)7761

第49期通常総会が開催された

５月25日（木）16時から、メルパルク横浜において、通常総会が開催された。糀理事の開会の辞で始まり、総組合員数48名に対し、全組合員48名が出席（本人出席31名、委任状出席17名）で、定足数を満たしているとの司会者・佐藤理事の報告があった。

石井理事長から「コロナ禍もだいぶ落ち着き、本日の総会から交流会までの日程は、４年ぶりにコロナ禍前の形で開催することができた。令和５年度は本格的に活動を再開していくので、組合運営にご協力いただきたい。」との挨拶の後、理事長が議長に選任され、理事長の議事進行で、過年度事業・決算報告、本年度事業計画・予算案など第１号議案から第５号議案について、全会一致で可決された。

また、組合員の活動拠点を実態に合わせるため、「地区」に茨城県、千葉県及び東京都を追加するとともに、神奈川県暴力団排除条例の趣旨に基づき暴力団排除規定を導入し、関係条文を追加・整理した、定款一部変更の第６号議案についても、全会一致で可決された。

その後、令和４年度組合加入者である、㈱ヴァンテックと㈱明吉工業が紹介されるとともに、令和４年度鉄骨製作工場性能評価大臣認定取得工場が紹介された。（下記のとおり）

・Ｍグレード更新　㈱ユタカ工事・㈱石井鉄工所・三葉鉄工㈱・㈲榎本鉄工所・㈱渡辺鐵工所・城南メタル㈱

・Ｒグレード更新　㈲内藤鉄工所・㈲平技建

組合からの情報連絡

当組合が令和５年７月から始める「定量的マスクフィットテスト測定機器貸出運営方法」の概要及び、令和６年度の「優秀施工者国土交通大臣顕彰候補者の推薦」について、推薦にあたり推薦者の業務量が多いことを見込んで、早めに準備する必要についての説明があった。

次に、全構協共済事業の一つである「オートリース」について、今回組合員が初めて活用して、当該組合員にとって利便性が高いだけではなく、組合にとっても収益があがる事業のため、多くの組合員に活用していただきたいとの説明があり、来場した住友三井オートサービス㈱の担当者が、事業内容の詳細を説明した。

また、今後予定されている「実質生産高調査」及び「業績調査」への協力を依頼した。

賛助会員の皆様との交流会の開催

総会後、久々に立食で交流会を開催した。

石井理事長の挨拶、岸部監事・相談役の乾杯の発声後、多くの方がマスクを外し、懇談した。

途中、賛助会員をご紹介する場面もあったが、組合員、賛助会員ともに、それぞれ自由にご挨拶に周られ、情報交換をするとともに、親睦を深められていた。

最後に、福士・川崎支部長の、発展・健勝を祈念する３本締めでお開きとなった。

出席者は組合員34名、賛助会員14社・25名、研修会講師3名、事務局等3名の計65名。

研修会の開催

５月25日（木）の総会に先立ち、日本製鉄㈱厚板・建材営業部建築建材室の安藤室長、岩見建築第二課長、山脇上席主幹の３氏を講師に迎え、「鉄鋼情勢について」をテーマに研修会を開催した。（欠席者にはレジュメを郵送しました。）

鋼材コスト高騰への対応やカーボンニュートラルへ向けた取組み等についての解説が、時宜に適した有意義な研修会であった。

出席者は組合員31名と事務局等3名の計34名。

山脇上席主幹　安藤室長　岩見課長

研修会「鉄鋼情勢及び鉄鋼業のCN施策」の概要

世界経済はウクライナ影響等で減速基調も、日本は2023FY1.8％成長と底堅さを維持。2023FY国内鋼材需要は自動車向け回復等により対前年微増予測。建築分野は2022FYは物流倉庫を中心とした端境期も、2023FY下期以降、高層案件の本格化、大型データセンターの出件を予定。

鉄鋼業のCN対応においては、電炉鉄源だけでは将来にわたって伸びゆく鉄需を満たすとはできず、高炉法を供給の軸として技術革新等による排出量削減に取り組むことが必要。その際､公正な評価基準としてリサイクル効果を反映する必要あり。

日本製鉄では大型電炉の併用、水素還元製鉄等により2030FY▼30％削減、2050FYカーボンニュートラルを計画。更にマスバランス方式を活用しゼロカーボン鋼材であるNS Carbolex Neutralを2023下期販売開始。工法（鋼重削減・工期短縮によるCO_2削減）と併せCN提案を加速していく。

経済産業省の外国人労働者の実態視察に協力

政府の有識者会議は、現行の外国人技能実習制度を見直し、「人材確保」と「人材育成」を目的とする新制度の創設を求める、中間報告書を示した。

その流れの一環として、経済産業省製造産業局金属課の鉄鋼担当の皆さんが、ファブの実態を視察することになり、全構協を通じて依頼があったため、当組合から城南メタル㈱が協力を申し出てくれ、５月12日に視察が行われた。

中央が実習生のナムさん

城南メタル㈱の福士社長と村岡専務から、５年前にベトナムから実習生３人を受け入れた経緯や、工場での仕事ぶり、生活の様子、その後の受入状況や帰国し起業した元実習生との仕事の連携などが説明された。また、鉄鋼業界の人材不足、高齢化などの諸課題について意見交換をし、さらに実習生の賃金、住居、コミュニケーションなどの詳細についても情報提供をした。

その後、工場に赴き、実習５年目となるナムさんに直接ヒアリングをした。

この視察が、実習生にもファブにとっても、良い方向に向かう材料となることを期待する。

フィットテスト説明会を開催します

特定化学物質障害予防規則等の改正により、屋内において金属アーク溶接等作業を継続して行う作業場については､溶接作業者に対して､１年以内に１回、呼吸用保護具を適切に装着できていることを確認するフィットテストを実施することが、令和５年４月１日より義務付けられました。

そこで、当組合では、定量的フィットテストに用いる測定機器を購入・管理し、組合員の皆様に貸し出すという新たな事業を実施することといたしました。

それに先立ち、右記のとおり、説明会を開催いたしますので、奮って受講してください。（各社のフィットテストの方法は任意で、貸出事業への参加は強制ではありません。）

ご案内は５月19日にＦＡＸをし、５月31日（水）が応募の締切でしたが、まだ席に余裕がありますので、ご希望の方は至急ご応募ください。

日　時：令和５年６月12日（月）
　　14:30～16:00
会　場：かながわ県民センター305会議室
テーマ：フィットテストの概要、
　　測定機器の使い方
講　師：有松仁氏（日本カノマックス㈱
　シニアセールスマネージャー、
　フィットテスト研究会認定
　　フィットテストインストラクター）
募　集：１社で複数のお申込み可能
受講料：無料